

## 石碑にこめられた思い －郷土の戦争の歴史－

- 1 学 年 第9学年〔後期〕  
 2 主題名 命の尊さ〔3－(1)〕  
 3 ねらい 戦時中の生活を知り、郷土の先人たちが石碑にこめた思いを想像することを通して、命の尊さを理解し、生きることを大切にしようとする心情を育てる。  
 4 資料名 「石碑にこめられた思い」  
 5 展 開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 石碑の写真を見る。 ○ 何を記念した石碑なのか、なぜ建てられたのか、どんな思いがこめられているのか、考えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石碑に彫られている文字を読もうとする。</li> <li>・ 戦争に関係ある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が知っていることを発表させ、展開に生かす。</li> <li>○ 平成7年に多くの人々の協力で建立されたことを知らせる。</li> </ul>
展 開	2 学徒動員の意味と時代背景を理解する。 ○ なぜ学生が働くのでしょうか。 ○ 学生達はどこから来ていたのでしょうか。 ○ どんな仕事をしていたのでしょうか。 3 資料「石碑にこめられた思い」を読んで話し合う。 ○ どんな思いで戦艦大和を見送ったのでしょうか。 ○ 上官は、どんな気持ちで女学生達を船に乗せたのでしょうか。 ◎ この石碑には、どんな思いがこめられているのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質問の答えを考える。</li> <li>・ 大和がいるから大丈夫</li> <li>・ がんばれ、自分たちもがんばる。敵をやっつけろ。</li> <li>・ でも、沈められた。</li> <li>・ 絶対に死なないでくれ。</li> <li>・ せっかく戦争が終わったのだから、生きる喜びを知ってほしい。</li> <li>・ 自分たちは命を簡単に投げだそうとしたが、今、生きていてよかったと思う。</li> <li>・ 今の中学生に、戦争の時代のことを知って、精一杯生きてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 質問形式で時代背景を押さえさせるとともに、資料に対するの関心をもたせたい。</li> <li>○ 写真を提示しながら質問し、説明していく。</li> <li>○ 世界一の戦艦であったことや華々しく闘ったことが連想されるが、多くの人が亡くなっていることに気付かせる。</li> <li>○ 多くの命が奪われた戦争の時代にあって、女学生達の命を守ろうとした上官の姿に気付かせる。</li> <li>○ 現在から当時の様子を振り返らせる活動を通して、感じる命の尊さを考えさせる。</li> <li>○ 石碑が吉浦中学校に建立されていることにより、中学生に命の尊さを訴えていることに気付かせる。</li> </ul>
終 末	5 石碑に込められている思いを感じながら、感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吉浦中学校があるこの場所は、戦時中、海軍工廠で働いていた学生の寄宿舎だった。命を大切にしない時代が繰り返されてはいけないという思いが込められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 石碑にこめられた思いを自分の言葉で伝えてられるように感想を書かせる。</li> </ul>

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

数十年前の戦争では、多くの人の命が失われた。時代の流れとともに戦争体験者が減り、その悲惨さが実感できにくい世の中になりつつある。そのため生徒には、実際に戦争を体験した方の当時の思いを直接聞かせること等により、命の大切さについて考えさせたい。また、戦争を経験し、現在まで生き延びてきたからこそ感じる命に対する思いを知ることによって、生命のかけがえなさや平和の大切さに気付かせ、生きることを大切にしようとする心情を育てたい。

### (2) 自作資料活用のポイント

#### ア 活用時期

近現代史に深く関わる内容であるため、社会科歴史的分野で学習した後に活用すると効果的である。また、呉空襲（7月1日）の学習と関連付けた指導も考えられる。

#### イ 中心場面

戦争で命を投げ出すことを受け入れていた当時の学生たちの姿に触れることにより、その時の自分の姿を振り返りつつ、「死ななくてよかった。生きているのはすばらしいこと。」と語る体験者の思いの強さに共感させたい。そして、命のかけがえのなさを感じ取らせたい。

### (3) 指導過程の工夫

#### ア 提示方法の工夫

展開前半では、複雑な史実に対する理解を深めるために質問形式を進めるようにした。また、プレゼンテーションソフトにより資料提示等により、さらに資料に対する内容理解を深めたい。西迫さんの語りの場面では、自身が描いた絵を場面絵として活用する等、臨場感をもたせる場の設定を工夫したい。

#### イ 素材の工夫

中学校にある記念碑を素材とし、実際に体験された方の話を中心に構成することによって資料の内容を身近に感じることができるようにしたい。また、主人公の年齢が中学生に近いことから主人公の気持ちと自分自身を比較させながら考えさせたい。

### (4) 参考資料

ア 学徒動員の日々を描いた絵（西迫マツ子氏画、呉海事歴史科学館所蔵）

イ 狩留賀寄宿舎の写真（西迫マツ子氏所蔵、呉市史編纂室所蔵）

ウ 呉戦災を記録する会編「呉戦災－あれから60年－」